

第1回（仮称）苫小牧市民ホールWG合同会議

【展示・窓口WG】議事要旨

日 時：平成28年7月4日（月） 14：40～16：00

場 所：本庁舎2階 21会議室

出 席：委 員3名、事務局2名、北 大2名

■WG参加のきっかけ・現在の仕事・活動について

子育てネットワークを生かしたイベント開催

- アロマやベビーマッサージをする活動をしており、それらを通して知り合った母親を中心に交流するイベントを年に数回開催しており、公共施設で講演会や小規模なコンサートを行っている。
- 子育て中の母親とのネットワークは幅広く、市内で様々な問題を抱えている方とも接する機会が多い。
- 苫小牧は転勤で来て1、2年で転出してしまう方が多く、団地で生活する妊婦さん・1歳前後の子どもをもつ母親が1年間ご飯もお風呂も満足にできない状態で暮らしていることに気付いた。そこで、皆で温かいおいしいものを食べて元気になってもらおうと、イベントを開催した。
- 通常、イベント運営に関わるメンバーは5、6人で、20～40分程度の集まりの中で議論しているため、小規模な部屋のほうが都合がよい。
- メンバーは基本的に口コミで集まって来る。

仕事と両立しながらサークル活動

- 所属する音楽サークルの年齢層は10代～60代と幅広く、主にチャペルを活動の場としている。伊達や函館方面まで出向くこともあり、月に1回は活動している。
- 音楽鑑賞に行きたい希望はあるが、時間が合わない、自分の好きなアーティストが来ない等の理由で行かないことが多い。例えば木曜、金曜あたりの会社帰りに行ける時間帯であれば積極的に行きたいと思う。
- 自分の周りにいる働く男性は、休みを取らず仕事を中心の生活になっており、趣味などをもち人生を楽しんでいるように見える人が少ないように感じる。

キャリアカウンセラーとして市民と向き合う活動

- キャリアカウンセラーとして活動しており、東京や札幌に行く機会も多く、様々な場所で相談・打ち合わせをしている。
- 新たな施設は、特定の誰かが有益を被る施設ではなくて、多様な立場の人がトータル

で楽しめるものであって欲しい。

- 空間の設えに関しては、座れるスペースのつくり方が重要だと感じる。ただ座るためだけの椅子ではなく、座って周囲の色々な活動が見えるような工夫が大切ではないか。

■新たな施設への期待

誰もが一生通い続けられるような施設

- 苫小牧では、冬場に出掛けるところが無い。多くの母親は特に買い物目的がなくともイオンやドンキホーテのような商業施設に行き、時間を潰している。
- 児童センターのような公共施設も存在するが、夏休み・冬休み期間は小学生の遊び場となるため、乳幼児が利用できなくなってしまう。
- これからつくる新しい施設では、誰にでも開放して、雨の日でも親子がお弁当を食べに来ているような光景を期待したい。
- 空間としては、乳幼児・小学生～大人まで幅広い年齢の人が同時に使える大きなものが良いのではないか。
- 新たな施設は、乳幼児の頃から継続して通える場所であって欲しい。小さい頃から芸術鑑賞をはじめとして施設に親しみがもてると、大人になっても愛着を持ち続けることができ、先の世代まで思いが共有される施設になると思う。
- 木育という言葉があるが、木を利用したおもちゃ・空間には人が集まりやすい。自然体験を求めてわざわざ苫小牧から登別等に出かける母親は多いが、身近な場所に木の空間があると、親子連れは集まりやすいと思う。

■窓口機能として求められること

窓口には、あらゆる相談事の本質を見抜き人脈を駆使して解決できる人材配置が必須

- 日本の役所は縦割りのため、手続き毎に窓口が異なることが多く、煩雑に感じる。
- 新たな施設では、ひとつの窓口で相談すると一括でいろんな情報が得られると良い。
- 様々な講座を一元化してディレクションするような仕組みが欲しい。市民講座等のイベントに関して、興味のあるものはたくさんあるが、方向性がバラバラでわかりにくいように思う。
- イベントのことを開催後に新聞記事になった時点で知ることが多々あり、開催前に情報を得たい。
- 窓口にはあらゆる相談が集中するため、その全てにある程度対応できる人材が必要。
- 市の職員が担うのか、外部に依頼するのか検討しなければならないが、悩みの本質を見抜き、様々なネットワークを駆使して解決の糸口を見出せるような人材こそが最も重要な課題ではないか。
- 相談窓口の設えに関して、短い時間の中で問題解決に向けた話をするのは難しい。その場の雰囲気も重要。例えば、外の緑が見えるなど、精神面でリラックスできる設え

が望ましい。

- 現状の子どもに関する窓口としては子育て支援センターがあるが、スタッフが2, 3年サイクルで変わってしまうことが課題である。

■展示機能として求められること

誰もが気楽に使える展示スペースから、幅広い人のつながりが生まれる

- 趣味で写真を撮っており、個展を開催したことがある。「展示です!」という構えた設えではなく、本当にさりげなく気軽に見てもらえるような場が欲しい。
- 自分の写真は建築を被写体としていることもあり、あえて額縁を使わず大胆に釘で張り付けるかたちで展示するが、壁に釘を打つことも許容するような施設ならば、小さな子どもたちも気兼ねなく楽しめるのではないか。
- 例えば、コンコースのような空間に気楽に展示できる設えがあると良い。
- 誰でも展示ができるようになると、利用者の幅が広がり、そこで新たな人のつながりが生まれる。
- 例えば、カフェの壁がその辺で撮ったスナップが貼れるような設えだと楽しそう
- 札幌にはカフェで服や絵を売っている場所もあり、コーヒーができるのを待っている間に色々と眺めているだけで楽しいと思うことがある。構えた展示スタイルではないことで、気軽に楽しめる。
- 近くの寺の壁が黒板のようになっており、子供が集まって落書きをして遊んでいる。
- 海外旅行でガウディの作品群のある公園を訪れた際、芸術に囲まれているだけで楽しく感じた。特別な遊具が無くても、どこかの学生が作った絵や椅子が置いてあるだけで人は集まると思う。

■全体を通じて

- 展示・窓口は総合力の求められる部会。特定の趣味を持たないような人も自然に集まって来られるような仕組みを考えていきたい。
- アンケートなどでは意見が吸い上げにくい働く男性や若い世代、文化団体に所属していない市民活動など、身近な人の意見や活動からもヒントを得るため、具体的な事例などを持ち寄りたい。

■次回に向けて

- 文化団体に活動内容・活動場所に関するアンケートを取っており、次回のWGでは速報のかたちで結果をお伝えしたい。
- それぞれの団体による多様な活動がある一方で、全体としての状況を把握していただきたい。
- 身近で行われている活動について、いつ・どこで・だれが・どのくらいの人で活動

しているのか具体的な事例紹介をお願いしたい。

- 市内に限らず、関心のある施設や取組について事例収集をお願いしたい。

■今後のスケジュール

次 回（第2回）：8月22日（月）13：30～ @市役所9階会議室

次々回（第3回）：9月16日（金）13：30～ @市役所2階21会議室